

項目		取組名	取組の目的・概要	ターゲット	リーダー	実施計画	実績	実施計画	実績	実施計画	実績	目標(達成時期:令和5年度末)	
				対象者		R3		R4		R5		アウトプット	アウトカム
普及啓発	既存	認知症サポーター養成	【目的】 認知症について正しい知識をもち、できる範囲で見守りや支援を行う人を養成する。 【概要】 小中高大学生向けに実施する。市民、企業は、依頼に基づき実施する。	全市民	事務局	・小5は、各校と調整して実施する。 ・中学生は、復習の機会として、社協が行う福祉実践教室を実施する。 ・三好高校、東海学園大学は、各校と調整する。 ・市民、企業向けは、依頼に基き実施する。	・実施数 小5 8校 595人 小6 1校 86人 (R2未実施分) 中学 3校 137人 職域・地域一般 7か所 109人 合計 927人 (累計20,158人) R3中に累計20,000人達成した。 高校に依頼をかけたが、コロナの影響で開催保留となった。	・実施予定数 小5 8校 608人 中学 4校 602人 (内希望校のみ) 職域・地域一般 希望箇所 高校・大学に依頼する。	・実施数 小5 8校 578人 中学 2校 107人 高校 1校 260人 大学 1校 453人 職域・地域一般 5か所 101人 合計 1,499人 (累計 21,657人) R4年度に高校・大学での開催を再開することができた。 R5年度で開催依頼も行う。	・実施予定数 小5 8校 566人 中学 4校 567人 (内希望校のみ) 職域・地域一般 希望箇所 高校・大学に依頼し、状況に応じて開催する。	・実施数 小5 8校 552人 中学 3校 121人 高校 1校 256人 大学 1校 391人 職域・地域一般 6か所 156人 合計 1,476 (累計23,133人) 高校・大学での継続開催をすることができた。 今年度はボランティアグループと協働した開催を多く行うことができた。	・年間1,500人を目標に養成する。 ・R3中に、累計20,000人を目指す。	認知症について正しい知識をもつ市民が増加する。
							・大人版講座開催時に、講座の案内チラシを配布する。 ・アルツハイマー月間におけるブースで、講座の案内チラシを設置し広く市民に広報する。	・職域、地域一般開催時に講座案内のチラシを配布し周知啓発を行った。 ・9月サンライブにて、アルツハイマー月間におけるブースにてみよし市の認知グッズ紹介やチラシを設置し広報活動を行った。 ・みよし市社協地域見守り活動事業「みまもっ手」の協力事業所に第1層SCと協力し周知活動を行った。	継続	・9月のアルツハイマー月に合わせてサンライブにてブース展示(令和5年8月25日～令和5年9月27日)や認知症カフェでの作品展示、来場者が持ち帰りできる認知症本人発信と併せたグッズ作成を行った。 ・職域、地域一般の講座開催時に案内チラシや認知症初期集中支援チームの周知チラシや紹介を行った。			
							・R3でとった大人版講座アンケートの分析を行う。	・登録キャラクターの整理と活動に関する支援、拡充を優先的に行ったため、分析は翌年度に引継ぐ。 ・3か所の講座に対して講座アンケートを実施した。	・R3-4年度のアンケートを基に分析を行う。	・5か所の講座に対して講座アンケートを実施した。 ・今後は認知症ステップアップ講座の内容検討と併せてアンケート結果を活用する。			
		認知症サポーターに係る広報	【目的】 認知症サポーターそのものを周知する。 【概要】 累計20,000人の達成を市広報誌等で周知する。	全市民	市	・累計20,000人を達成した後に、達成についての記事を市広報誌、ホームページ等で周知する。 ・周知と同時に、講座の受講を促す。	・累計20,000人達成について、R3.12ホームページで周知した。	認知症サポーター養成講座で広報していく。(認知症サポーター養成の取組に移行)		終了		広報、ホームページに掲載する。	認知症サポーターという取組について、市民が知ることができる。

項目		取組名	取組の目的・概要	ターゲット	リーダー	実施計画	実績	実施計画	実績	実施計画	実績	目標(達成時期:令和5年度末)	
				対象者		R3		R4		R5		アウトプット	アウトカム
		登録キャラバン・メイトの活動支援	【目的】 キャラバン・メイトとして登録している人のうち、活動できていない人のニーズを把握し、活動できる人を増やす。 【概要】 キャラバン・メイト登録者に活動に関する活動希望調査を行い、希望に応じた活動促進を行う。	キャラバン・メイト	事務局	・キャラバン・メイトを対象に、活動希望の有無や活動内容の希望について、活動希望調査を行う。 ・活動希望調査を踏まえて、R4以降の支援のあり方を決める。	・キャラバン・メイトを対象に、活動希望調査を実施した。 送付 28人 回答 19人 支援がであればできる3人（内実際に活動した人2人）	・支援があればできると回答した3人に、ヒアリングを行う。 ・既存メイトの活動実績を整理する。	・既存キャラバンメイト活動実績の整理とアンケートを行い、活動できると回答があった3人の対象者に対してヒアリングを実施した。 ・内2人は継続的に活動ができる意向を確認し、年度を通して小学校での活動に繋がった。	・対象者2人に対して継続的にキャラバンメイトとして活動できるように講座フォローや活動に対する相談支援を行う。	対象者2人に対して今年度もキャラバンメイトとして活動フォローを行った。 内1名については小学校開催にて1人で活動できるようにフォローを行った。 来年度以降も活動継続の意向確認をし、繋がりを持つことができた。	小学校で活動できるメイト、大人版講座で活動できるメイトを新規で1人以上増やす。	登録キャラバン・メイトのうち、活動をする人が増える。
普及啓発	新規	アルツハイマー月間における普及啓発	【目的】 認知症について幅広く知ってもらい、関心や正しい理解を持つことができる。 【概要】 9月21日世界アルツハイマーデーや、9月のアルツハイマー月間に認知症の普及啓発を行う。	市民	市	・アルツハイマー月間に、サンライヴで認知症のブースを設置する。	・令和3年8月27日～令和3年9月15日の間、サンライヴにて認知症のブースを設置した。 ・warau café主催者に、掲示物の設置協力をしてもらった。	・令和4年9月1日～令和4年9月30日の1か月間、サンライヴにて認知症のブースを設置する。	・令和4年9月1日～令和4年9月30日の1か月間、サンライヴにて認知症のブースを設置した。 ・warau café主催者に、掲示物作成及び設置協力をしてもらった。 ・市内8小学校（小学5.6年生）、4中学校にブース周知チラシを配布した。 ・広報9月号特集ページ、地域情報番組、SNSにて広報周知した。	継続	・令和5年8月25日～令和5年9月27日の間、サンライヴにて認知症のブースを設置した。 ・warau café主催者に、掲示物の設置協力をしてもらった。 （R2調査結果200人、有効回答者数981人）	高齢者福祉計画兼介護保険事業計画作成基礎アンケートで「（本人又は家族に認知症の人はいない人が）認知症相談窓口を知っている」と回答する人を増やす。 （R2調査結果200人、有効回答者数981人）	市民が市の認知症施策を幅広く知り、認知症について正しい理解を持つことができる。
社会参加		チームオレンジ活動支援	【目的】 チームによる早期からの継続支援が地域の中で行えることで、認知症の人やその家族が安心して生活を送ることができる。 【概要】 チームオレンジコーディネーターが中心となり、地域のニーズに合わせ、チームオレンジ活動支援を行う。	全市民	きたよし	・月2回の頻度で、半年間かけてステップアップ講座を実施できるよう、1行政区と調整する。	・R3中に、全12回のうち8回の講座を実施した。	・R3から継続し、1行政区における残り4回の講座（全12回）を実施する。	1行政区のステップアップ講座を修了し、みよし市初のチームオレンジ設置の支援を行った。`	・チームオレンジ立ち上げ後の継続支援に対してチームリーダーと協議し、継続的な支援を行う。 ・認知症の人の支援について、他行政区におけるニーズを把握する。	・リーダーと内容検討し、再度、メンバーで集まり、認知症の理解の復習や対応方法についてグループワークを行い、継続的な繋がりを持ちながらチーム活動の支援を行った。 ・他行政区での立ち上げに備え、検討メンバーを招集し、立ち上げ前準備となるステップアップ講座の内容を精査することができた。	市内に、チームオレンジを設置する。`	三好丘緑行政区を皮切りに、認知症の人を支える地域づくりを、他行政区にも横展開していく。

項目		取組名	取組の目的・概要	ターゲット	リーダー	実施計画	実績	実施計画	実績	実施計画	実績	目標(達成時期:令和5年度末)	
				対象者		R3		R4		R5		アウトプット	アウトカム
普及啓発		認知症ケアパスの内容充実	【目的】 認知症の人やその家族の使い勝手を考慮した内容に改善し、認知症の人やその家族が望む情報入手しやすくなる。 【概要】 利用者へのアンケート等を踏まえた大幅な修正を行う3年のサイクルを確立し、毎年度の軽微な修正と合せて内容の充実を図る。	65歳以上の高齢者、その家族	市	・R2の大幅な修正とコトワケに配慮し、早ければR3の後半で配布した人に見やすさや情報の入手のしやすさについて利用者アンケートを行う。 ・アンケート実施ができれば、利用者アンケートの結果を踏まえて内容の修正を行う。できなければ、軽微な修正を加える。	・アンケートは実施せず、R3は軽微な修正を加え、おおよし地域マップ・ACPページを追加した。	・認知症介護家族交流会（ひまわりの会）にて、認知症ケアパスの内容についてヒアリングを行い、認知症の人の家族の声をR5ケアパスに反映させる。 ・R5に意見を聴く方法や対象者を検討する。	・認知症介護家族交流会（ひまわりの会）にて、参加者6人にヒアリングを実施した。 ・「見にくい」「言葉や内容が難しい」という意見を踏まえ、高齢者福祉マップ（認知症ケアパス）P.10.11のレイアウトを見やすく修正した。 ・ひまわりの会ヒアリングを優先し取り組んだため、R5の手法検討までは至らなかった。	・本人の声を拾う手法について検討する。 ・高齢者福祉マップ（認知症ケアパス）に、本人の声を反映させる。 ・軽微修正を加え、R6に大幅な修正を行う。	・本人の声を聴くためにデイサービスでモデル的に本人ミーティングを実施した。 ・R6版に日常生活圏域ごとの事業所ページの統合、地図の一元化、予防に関する情報の充実を図る改定を行った。	利用者アンケート等の実施内容決定後、数値目標を設定する。	認知症の人やその家族が、必要な情報を入手できる。
予防	既存	認知症初期集中支援チーム	【目的】 認知症の人又はその疑いのある人、家族に早期に診断や受診支援を行い、本人が望む生活の継続を支援する。 【概要】 医療・介護の専門職がチームで活動し、認知症サポート医の助言、チーム員会議でのケース検討でよりよい支援を行う。	40歳以上の高齢者、その家族	みなよし	・認知症初期集中支援チームの検討委員会の機能のあり方を再検討し、活動の活性化について議論できる環境を整える。 ・チーム員の活用方法、使用書式の簡略化に向けた見直しを行う。 ・R2作成のチーム員伝達研修により異動者等のチーム員の研修を行う。	・検討委員会のあり方は、認知症作業部会で課題検討、チーム員会議で相談、地域包括ケア推進会議で報告・最終決定することで、整理した。 ・チームの支援体制見直しに伴う現状把握のため、包括職員全員を対象にアンケートを実施。結果を踏まえ「チーム員会議の開催」「ケース対応者」「記録の簡略化・分担化」について見直しを行う。 ・チーム員研修 2人受講	・認知症ケースの掘り起こしができるよう、市民に対して認知症相談窓口である包括の周知活動を行う。	・認知症の相談窓口のチラシを作成し、周知方法として住民から認知症の相談を受ける医療機関と調剤薬局へ訪問し周知を行うこととした。市内の該当施設へ訪問し、相談窓口を周知、チラシの活用と配架を依頼した。 ・医療機関等への周知活動後のチーム員会議で、住民向けのチーム周知活動の強化を意見として受け、チーム周知のチラシ作成に取り組んだ。	継続	・作成した住民向けチームチラシを用い、7月～12月医療機関・調剤薬局へ訪問して周知した。7月はケアマネジャー連絡会、10・11月は行方不明高齢者搜索模擬訓練や認知症サポーター養成講座でチラシを配布しチームの紹介を行った。地域の老人憩いの家にもチラシを配架した。その他、市役所の市民課モニターやさんさんバス車内においてチーム員の紹介を放映。	年間12件支援を行う。	本人が望む生活を継続できる。
社会参加	既存	認知症カフェの普及	【目的】 認知症カフェの周知度を高め、必要な人が認知症カフェを利用できるようにする。 【概要】 市広報誌等利用し、市民に普及啓発する。	全市民	なかよし	・R2から開始した市の広報誌の「認知症カフェ」のコーナーを継続する。 ・コトワケに配慮して参加者数が急増しないように口コミで広める。	・市広報誌の「認知症カフェ」コーナーの掲載を継続した。	・広報誌の掲載を継続する。 ・図書館を利用しPRする。	・市広報誌の「認知症カフェ」コーナーの掲載を継続した。 ・図書館にて1か月間、認知症カフェブースを設置し、みよし市の各認知症カフェのチラシを配布した。	・市広報誌の「認知症カフェ」コーナーの掲載を継続する。 ・図書館を活用させてもらって、PRを継続する。		・市広報誌に年12回掲載する。 ・図書館でのブースにて、普及啓発する。	・認知症カフェの新規利用者が15人以上となる。（R3アンケート調査結果11人）
	新規	認知症カフェの開設支援	【目的】 市内に特色の異なる認知症カフェが増えることで、市民の多様なニーズに対応した認知症カフェが提供できる。 【概要】 量的拡大の方針を維持し、コトワケの収束状況を見ながら開設支援を行う。	認知症カフェ開設の担い手候補	なかよし	・R2に行った既存の認知症カフェの開設者へのヒアリングを踏まえて、開設支援にはどのようなことが必要かをまとめた推進員必携マニュアルを作成する。 ・コトワケの状況を見ながら、開設候補となり得るところへ説明や開設促進の交渉に出向く。	・開設支援のための、推進員必携用マニュアルを作成した。	・マニュアルを参考にし、開設希望者に対して支援を行う。	・開設支援を進めていく上で、既存のみよし市認知症カフェが開設当初と現在でどのようなになっているかをヒアリングシートを活用して整理した。	・整理した認知症カフェの特色を基に、特色の異なるカフェの開設支援を検討する。 ・コトワケの状況を見ながら、開設候補となり得るところへ説明や開設促進の交渉に出向く。	・「アルツハイマー月間サンライズ普及啓発」において、市内認知症カフェの利用者（当事者）作品展示を行うことで相乗効果並びにPR活動に寄与できた。	希望者又は候補者との開設に向けての協議を各圏域2件以上を目途に行う。	各圏域に2か所ずつの認知症カフェ実施（R2.3時点5か所）

項目		取組名	取組の目的・概要	ターゲット	リーダー	実施計画	実績	実施計画	実績	実施計画	実績	目標(達成時期:令和5年度末)	
				対象者		R3		R4		R5		アウトプット	アウトカム
	新規	認知症カフェの開設支援	【目的】 認知症カフェに対する参加者のニーズ、意見、要望を把握し、既存のカフェの改善、新規立ち上げの際の参考にする情報を得る。 【概要】 各カフェ参加者を新規と継続者に分けてアンケートを実施する。	各認知症カフェ参加者	なかよし	・R2に推進員の合議により作成した新規用、継続者用アンケートを実施する。 ・半年、1年のところを目途に集まったアンケートを分析する。 ・アンケート内容が分析したいデータを取得できる内容であるかの視点で改善する。	・新規用アンケートについては、1年を目途に収集を継続した。 ・新規利用者数 市内5か所 10人 (コロナ禍で中止となっているカフェもあるため分析までは至らず)	・R3の新規用アンケートの回答を踏まえ、アンケートの内容を見直し、アンケート用紙を修正する。 ・アンケートの分析方法を検討する。	・新規用アンケートの見直しと修正を行った。 ・アンケート分析のしやすさを考慮し、”1つの集計表にみよし市既存の認知症カフェの集計結果を入力できる方式”に変更した。	・認知症カフェ新規立ち上げ支援の参考になる情報を得る手段を検討し、発信する。	・先進地視察（東郷町）を実施。実施主体や運営についての聞き取り、利用者へのインタビューを実施。 ・認知症カフェ開設候補地について、市内の喫茶店のリストアップを実施。市内包括での情報共有並びに候補リストの集計を実施。	各カフェ参加者全員からアンケート収集	市民の望む認知症カフェに改善され又は新規設立され、カフェが参加者の楽しみの場になる。
本人発信支援		当事者の声を生の声として記録・発信支援	【目的】 当事者の声を聴く習慣を作り、各種取組に生の声を反映させられる環境を整える。 【概要】 本人の声を集めるためのツールを利用し、本人の声を記録し見える化する。	市民	R3市・なかよし R4おかよし	・本人の声として記録するシートを作成し、地域包括ケア推進会議で諮った後から収集を開始する。 ・声を記録するタイミング等の運用方法を計画する。	・本人発信支援のための手法について情報共有した。 ①本人の声収集シート 和歌山県御防市から情報収集 ②本人ミーティング 東郷町視察 県内4市町村から聞き取り	・認知症の人と家族の一体的支援プログラムを検討するために、みよし市の認知症施策を分類分けし見える化する。 ・認知症の人と家族の一体的支援プログラムについて学ぶ機会を検討する。	みよし市の認知症施策を知るために見学を行い実情を知ることが出来た。 ・本人と家族が活動している施策を「一体的支援プログラム」「家族会」「認知症カフェ」「本人ミーティング」の観点で整理した。	・カフェの枠で本人支援が出来ているのか（今後可能か）立ち上げのコンセプトを知る。 ・本人の声が発信できる場が他に有るのか、無ければどういう形で声を収集するのかを検討する。		手法が決まるタイミングで、指標も決める。	ケアバス、認知症サポーター養成講座、認知症カフェ等の取組に声を反映させることができる。